

12月18日

五霞中学校生徒に選挙啓発活動を実施しました

昨年に引き続き、町選挙管理委員会と五霞中学校が連携して、「選挙啓発講座」及び「生徒会役員選挙（投票体験）」を生徒に対して、実施しました。

選挙啓発講座

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、近い将来選挙権を得ることになる生徒たちに選挙の仕組みや投票手順、若い世代の意見を政治に反映させるために1票を投じることの大切さを伝えました。



〈講座「私たちと選挙」〉

全生徒約180人を対象にして、町選挙管理委員会事務局の書記が、プロジェクターを使用し、選挙について講義を行いました。選挙権がない年齢のうちから、生徒の知識と関心を深め、投票意欲の向上を目指しています。

生徒会役員選挙（投票体験）

中学校の次年度における生徒会役員を決めるため、第3学年の生徒は、実際の選挙制度に準じた投票を行いました。町で使用する本物の選挙機材（投票記載台、投票箱等）を使用し、また、町選挙管理委員会委員が投票管理者及び投票立会人を務めたことで、緊張感のある空間で、本番さながらに投票を行いました。



〈投票用紙の交付〉

投票用紙自動交付機を使用し、生徒に投票用紙を交付しました。



〈投票箱への投函〉

記載台で候補者名を記入後、実際に投票箱に投函しました。



〈啓発品の配布・実際の投票用紙〉

投票終了後、啓発品を配布しました。また、本物の投票用紙に触れて、感触を確かめました。

選挙出前講座・投票体験の重要性

現在、若者の政治への無関心が大きな社会問題となっており、各選挙における20代、30代世代の投票率が、他の世代に比べて極めて低くなっています。若年有権者層の投票率が低いという状況が、そのまま進んでいくと、若者の意見が反映されにくい社会が形成されてしまいます。18歳選挙権が始まったことを受け、若い世代が社会の責任ある構成員として、選挙を始め政治に参加しなければなりません。そのための準備として、主権者教育がますます重要になっています。